

本だけがどうですかね。1985年くらいと比べれば、1200万トあったのが、いま400万ト割っているような状況ですから」と池見さん。

資源管理をどうするかという課題でもある。特に先進国は科学的データを取って、例えば漁船の操業を制限するなどの資源管理を行う方向へ進んでいる。

日本も国が資源管理を始め、県や市レベルで取り組む所も出始めたが、課題は多い。

FAO（国連食糧農業機関）によると、10年後の水産物資源データで日本だけがマイナス。資源管理をいかに実行していくかが日本の課題だ。

水産物消費減少の現実を

また日本の水産物消費が減少しているのが気懸り。一人当りの水産物消費量はひと頃60キ（在肉）あったのが、今は45キにまで減少。

「魚から抽出するEPAやDHAといった成分は健康にいいとして、タブレット（粉末）の原料として、ポンポン売れるんですよ。でも、

魚そのものが」と池見さん。

「いま、インバウンド（訪日）客が増え、寿司など日本の食文化が注目されている。もちろん、日本人も寿司はよく食べるし、寿司の消費量は減っていないけれども、日本の水産物消費量が減っているという事です。水産物消費の減少は、水産物を扱う企業側にも責任の一端がある」

漁業の在り方についての企業の使命と役割について、考察する時が来たと訴える池見さんだ。

大坪修さんの挑戦

東京・三軒茶屋病院や東都文京病院、北多摩病院など有力病院を抱える特定医療法人・大坪会の会長を務める大坪修さん。その大坪さんは学校法人青淵学園東都大学の理事長も務められるなど、幅広い分野で活躍しておられる。

東都大学は埼玉県深谷に本籍を置き、看護・管理栄養・理学療法・臨床工学などの資格者を育てる医療教育界の大手。深谷市のほか、千葉・幕張、静岡・沼津の計3つのキャンパスでヒューマンケ

ア関連の学科を運営。

深谷といえは、日本資本主義の生みの親、渋沢栄一の出身地。その縁で、学校法人名は渋沢の雅号を取って、青淵学園と名乗っている。進取の気性を發揮して、東都大学は近く農学部を開設。医療系大がなぜ農学部なのか？

「1つは、国の方針もあります。いま、他の学科の新設はもう認めないけれど、国としては農学部はつくらなければいけないと。それからIT情報技術も強化しなくてはいけないということで、その2つを兼ね備えた農学部です」

沼津キャンパスの敷地は約3万坪（9・9万平方メートル）あり、農学部としての敷地も十分に確保できるといふ。

人工太陽で育てる野菜

何より、いま日本の食糧自給率は38%と先進国中で最低の数字。安全保障が食料の領域でも言われ始めてきた。

「ええ。日本の将来の構想ですね。今回みたいな世界情勢が続くと、やはり農業もちゃんと自分た

ちで手掛けないといけない」

大坪さんが続ける。

「沼津は昔から、お茶とか果樹園、ビニールハウス栽培が盛んな所。農学部では、日陰でも人工太陽でできる野菜だとか、水栽培とか、あるいは砂の上で栽培するとかいろいろと挑戦していかないと」

士がない野菜、づくりも計画。成長も早く、短時間で収穫でき、「葉っぱに無駄がない栽培とかね」と進取の気性を發揮する大坪さんである。

